

**第66回寒河江市都市計画審議会**  
**(都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定 第4回) 議事概要**

日時：令和7年11月14日(金) 14:00～16:00

場所：寒河江市役所議会会議室

出席委員：9名(欠席2名)

**都市計画マスタープラン質疑・応答**

◆ 委員

- ・第2次都市計画マスタープランの定期的な見直し時期のおおよその目標はあるか。

□ 事務局

- ・立地適正化計画が5年スパンの見直しを検討しているため、同じ期間で都市計画マスタープランも見直しが必要かどうかを検討していきたい。

◆ 委員

- ・今回、計画期間を20年と設定しているが、前回と期間を変えたのはなぜか。

□ 事務局

- ・前回の都市計画マスタープランは30年の計画とし、中間年で見直しを行った。今回は、国のガイドラインに沿った形で20年としている。

◆ 委員

- ・地域生活拠点の整備の具体的な促進策や、行政、民間事業者や住民それぞれの期待される協力内容はどのように想定しているか。

□ 事務局

- ・地域生活拠点について、この計画ではまだ具体的にはないが、考えられるものとして、地域コミュニティーセンターの整備等がある。その整備に関しては、ワークショップを開催し、どういうものが需要でどういう整備を行っていくべきなのかを御議論いただいた上で決めていきたい。住民の皆様と協働で進めていきたい。

◆ 委員

- ・30ページ道路整備方針図で、②落衣島線については振替えをすとの話だが、主要地方道の天童大江線から寒河江公園の所のコンビニまでの区間がなくなるのではないか。
- ・道路の整備時期について、前は短中長期のような表記があったが、今回は整備の優先順位はどのように考えているか。
- ・路線廃止に向けた検討等の説明があったが、そこに至った理由も掲載できないか。

□ 事務局

- ・振替えについては、②落衣島線の西側、水色の線北側の点線部分一番北に用途地域のエリアの線があるが、この線に沿った形で東側に移っていき、落衣島線のルートにつながる形にしたいと考えている。
- ・優先順位について、この表にある1番から13番が1つの目安として記載している。前は短期、中期、長期という表現をしたが、短期と表現をしたときに、すぐにできるだろうというような受け止め方をされる場合が多かった。実際は、予算的なものや法規的な

難易度などが複雑に絡むものであるため、そのような表現を見直した。また、優先順位の目安としている 1 番から 13 番は、例えばそのときの住民の理解や交通環境の変化など、その時節において変更があり得ることを御承知おきいただきたい。

- ・廃止検討などの理由については、都市計画マスタープランでは掲載しない考え。今後、各地区での説明会を開催していく中で、その理由を皆さんに御説明し、御理解をいただきながら進めたい。

#### ◆ 委員

- ・道路整備計画は長期にわたる計画であるが、今後の小学校再編や整備などは織り込まれているか。決まったらその都度変更ということになるのか。

#### □ 事務局

- ・学校整備に関しては基本的にまだ織り込まれていない。今後そういった整備により学校の位置が変わる可能性がでてくると、計画路線の導線を見直す問題が生じてくるが、実際にその学校の新しい場所が確定しないと道路の設計も考えにくく、今回はそのままにした部分もある。ただ、学校の整備に伴い、この路線はこうのように変える可能性があるというのは、今後、御説明を申し上げて御理解をいただきたい。

### **立地適正化計画質疑・応答**

#### ◆ 委員

- ・32 ページの誘導施設の立地状況の表で、南寒河江駅周辺に施設が全くない表になっているが誤りではないか。

#### □ 事務局

- ・南寒河江駅周辺の都市機能誘導区域内の施設の立地状況が抜けていたため、修正する。

#### ◆ 委員

- ・45 ページからの誘導施策について、非常に大事なことと思うが、逆に、各地域で老人世帯や老人の一人世帯が着実に増えている状況の中で、そういったところを取り残さないための方法は何か考えているか。

#### □ 事務局

- ・その視点はすごく大事だと考えており、各地域においては地域生活拠点として生活の基盤となるような拠点を作っていききたい。例えばコミュニティーセンターの整備など、その地域に必要なものを整備していくことで、地域の中でも緩やかに集約化を図り、それぞれの集落が存続しながら生活ができるような仕組みを考えたい。
- ・公共交通ネットワークの維持充実がこれからの社会はキーになってくると考えている。JR、路線バス、循環バス、デマンド交通等あるが、今の形が最善ということではなく、技術的な進歩なども社会全体の中で加味しながら、必要に応じて見直していきたい。

#### ◆ 委員

- ・高齢者の立場からすると、良好な住環境の形成の中に、学校跡地の活用、医療福祉等々の話が出てきたり、バリアフリー化の話が出てきたりというようなことで、情報が分散的に入り込んでいる。高齢者にとってわかりやすくする仕掛けがあれば、より理解が進むかと思うので、今後の具体化にあたって検討をお願いしたい。

#### ◆ 委員

- ・中心拠点におけるまちづくりについて、若い世代が交流するための施設誘導とあるが、具体的にどういう施設か。

□ 事務局

- ・ 具体的なものは正直ないが、例えば今まで市が企業誘致などをする際、どちらかという  
と工業や商業施設の誘致が多くあった。今後は、若い方が望むような誘致も進めていか  
なければならないということで掲載している。アンケートでは、遊戯施設などの誘導や  
誘致をしてほしいという御意見を多数いただいているところ。

◆ 委員

- ・ 人口減少や高齢化で人口を一定数保っていくためには、婚活イベントなどよりも、若い  
人が交流できる所が必要であると感じている。東京から戻ってきても遊ぶ所がないなど  
感じることは多かったので、その辺も考えていただきたい。

□ 事務局

- ・ 都市計画マスタープランでの文教交流エリアについて、新しく統合中学校が位置する所、  
現高校 2 つがある所を含めたエリアを位置づけている。また、文教交流エリアからは少  
し外れるが、まちなかに若い世代の方が活動できる拠点をということで、今動いている  
取組の 1 つに、フローラ寒河江の 2 階をリノベーションするプロジェクトがある。この  
目的としては、若い世代の方がいろいろな刺激を受けられることや、集まっているいろ  
んなアイデアを出し合って、創業や起業までを含めたインキュベーション機能を持つ拠点と  
なるようにということであり、そのようなものを活用していきたい。

◆ 委員

- ・ 若者のための施設はすごく重要。高校生のうちから、何かそこになじみがあるというの  
がすごく大切だと思うので、ぜひ良い施設になるように検討を進めていただきたい。

◆ 委員

- ・ 46 ページの未整備な都市計画道路の整備促進には大賛成。落衣島線の整備が来年度の完  
成予定で、その後は平塩橋の架け替えに移行すると思うが、できれば同時並行的に居住  
区域に該当している山西鶴田線を早期に整備してほしいので検討をお願いしたい。

□ 事務局

- ・ 都市計画道路の整備をするには多大な予算等々必要となる。今、委員からいただいた御  
意見なども含めて今後の整備を進めたいと考えているので、御理解をいただきたい。

◆ 委員

- ・ 66 ページにある地震に関する課題で、「液状化」とあるが、寒河江市において、液状化現  
象の起こる場所はどこが該当するのか。

□ 事務局

- ・ 本日は液状化の場所についての資料を持ち合わせてないため、後ほど提供させていただ  
く。県の調査や資料の中で、寒河江市においても一部分で液状化のリスクのある場所が  
示されていたと記憶している。

◆ 委員

- ・ 第 8 章の計画評価と進行管理、3 の効果指標の設定で、「寒河江市に将来も住みたいと思  
った市民の割合」が現在 72% であり、目標値 27 年度が 75% 以上というのは、まだまだ  
寒河江はもっと魅力があると思うので、もう少し上げてもいいのではないかな。

□ 事務局

- ・ もっと満足度が高まるように取り組んでいく。目標値については再度検討したい。

◆ 委員

- ・ 全体的な話だが、これだけの膨大な量の計画書なので、概要版を出す際には、高齢者にもわかりやすくまとめていただければありがたい。

□ 事務局

- ・ 概要版の作成時に検討させていただきたい。

◆ 委員

- ・ 都市計画マスタープランの 40 ページで、市を大きく 5 つの区分に分けている。その中で、寒河江地区は人口割合が約 46%あり、その他の地区は大体 15~11%という状況になっている。小さい所はどんどん人口減少となり、居住誘導区域を大きな所に集約しなければ、財政的にも公共サービスができなくなるというような考えか。

□ 事務局

- ・ 持続可能なまちとして都市づくりを運営していくには、やはり一定程度の集約は必要だと考えている。一方で、地域ごとのコミュニティも大切にしていかなないと、その町は衰退していくとも考えている。そこで、集落ごとの活性化を図っていくため、地域生活拠点を定義している。一極集中ではなく多極型の都市構造を目指すということであり、都市機能としては、一定程度の集約をしつつも、各地域の集落は大切にしながら、集落ごとのコミュニティを維持していくことが寒河江を守っていくことにつながっていくのであろうと考えている。

◆ 委員

- ・ 人口減少という中で、課題はいろいろとあると思う。移動サービスについては、デマンド交通や、海外での仕組みを参考に、日本でも地域の移動サービスを工夫して導入することが考えられ、例えば Uber Eats のようなサービスは日本にもあるが、Uber 本体のように、利用者が副収入を得ながら、地域で小さなボランティア的な役割を担う仕組みもある。また、高齢者施設で話題になっているのは、将来、入居者が減ってくるときに、それを目的外で住居として使えるようにするとか、工夫をしながらまた資産を動かして運用していく。そういう可能性を注視しながら進めていくことと思うので、今後も市民の話合いを基に、豊かな寒河江に向かっていっていただきたい。

## その他質疑・応答

◆ 委員

- ・ 振興計画について、今、第 7 次を検討されているのか。

□ 事務局

- ・ 今、第 7 次振興計画の策定作業中で、今年度中に策定予定となっている。都市計画マスタープランでもそれらを織り込みながら、都度対応について検討していくので、御理解いただきたい。

◆ 委員

- ・ 立地適正化計画の最後に目標値の資料があったが、これは振興計画の目標のものか。

□ 事務局

- ・ 寒河江公園の年間の利用者数や市が運行する公共交通サービスの年間利用者数など、いくつか同じものを使用している。関連計画との整合性の観点からも本計画においても、いくつか同様に設定している。